

梅花の歌三十二首

八一五番

正月立ち むつきた 春の来らば はるきた かくしこそ 梅を招きつ うめを
つ 楽しき終へめ たのを

八一六番

梅の花 うめはな 今咲けるごと いまさ 散り過ぎず ちす 我が家の園 わが家のその
に ありこせぬかも

八一七番

梅の花 うめはな 咲きたる園の さきたるその 青柳は あをやぎ 縵にすべく かづら な
りにけらずや

八一八番

春されば はる まづ咲くやどの さ 梅の花 うめはな ひとり見つ み
つや 春日暮らさむ はるひく